

2003年1月1日

皆さん 新年明けましておめでとうございます。今年も宜しくお願いいたします。
裏磐梯は穏やかなお正月で磐梯山も全景青空に浮かび2003年を迎えました。
世の中色々な面でデジタル化が進んでいますが、もくもくは今年も身体を動かして自然と遊ぶアナログ的プログラムで皆さんと一緒に楽しんでいきたいと思ひます。
スクール名も4/1より「ネイチャーリングサポートもくもく自然塾」としてより一層自然体験プログラムの充実を目指しますので宜しくお願いいたします。(もく)

あけましておめでとうございます。
裏磐梯の元旦は、白く積もった雪と、風の無い快晴であけました。毎度おなじみ磐梯山も、安達太良も、吾妻もくっきり、ぱっちり、見えています。サイコー！の天気です。
年末から昼夜仕事続きでしたが、今日はお休みになったので、銅沼いってこよーかな。飯豊がきれいに見えることでしょう。わくわく。



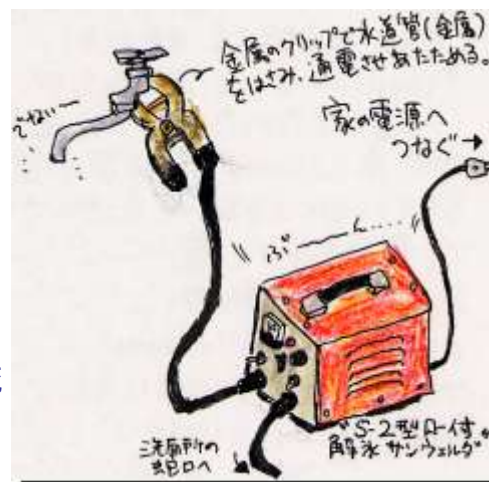
2002年のおおみそかの、満喫ツアー、レンゲ沼でシメを見ました。アカイタヤの実を熱心に食べてたので、双眼鏡で観察。「これ、覚えやすいわねー」とお客さん。「え、何で??」もう1人のお客さんと私は「?」、「だって、年のシメに、シメ、でしょ」(まき)

2003年1月6日

年末年始は冷え込んだ。4日、顔を洗おうと蛇口ひねったら、水が出なかった。「ああ、今年もきてしまったあ…」フロ場も出ない。昨年の秋に水洗になったトイレは流れない。
とりあえず、クロカンのインストラクターの仕事に行かなくては。と、出かける。
昼に終わって、台所と部屋と2つストーブつけて待ってみても、うんともすんとも言わない蛇口。
一晩中ストーブつけて寝たけど、だめ。
5日、一日中家にいて、ストーブをたく。だめ。
6日、水道屋さんにTel。出ない。午前中何回かTelするが出ない。お昼になっても出ない。顔はガビガビするし、この3日、とってる水分といえばミカンだ。くそー、温泉行ってくるかあ。ストーブたき続けで、灯油も底をついた。買ってこなきゃなー。
4日5日降り続いた雪がやんだので、雪かきしたら2時間かかりました。さて、この続きはいかに?(まき)

2003年1月7日

1月6日の昼に、1軒目にTelした水道屋さんが休みだと分かって、2軒目にTelした。一旦は断われたのだが、折り返しTelがあり、5分後くらいにその水道屋さんが来た。
「これでOKだ!!」と思った。洗面所の蛇口と台所の蛇口それぞれに電気を流し、その熱で解氷する機械をもってすれば。
しかし1時間後、蛇口からは熱い水蒸気が「じゅわーっ」と立ち登ったが、それきり水は一滴も出なかった。どうも、地上からの配管の中が凍ってるらしい。配管は壁の中なので、直接熱することができない。急激に熱くしてもだめなので、電圧を下げて電流を流す。もちろん2台のストーブは稼働している。灯油も40L買って来た。



6日の晩、お隣のAさんちの実家(裏磐梯のとあるペンション)にもらいぶろに行った。調理に水を必要としない食料(食パンにとろけるチーズ、とか)と、ペットボトルの水も2Lも買って来た。一晩中、電気を流し続けたが、7日になっても出

ない。その朝、枝々は白く氷ついて、とてもキレイだった。それを手離しでよろこべない悲しさよ。

休暇村へ8:30ころ向かう時、 -5°C であった。そして7日の夕方となった。今日はこれからラビスパ(温泉)へ行って、喜多方へ下り、コインランドリーで洗濯してこようと思っている。水はまだ出ない。がんばれ、サンウェルダ。(まき)

2003年1月8日

7日に会った喜多方の知人に、「いつものことじゃん。キャンプ生活」と言われた。「うん、キャンプ生活。でも、4日からなんですよね。」と、力なく答える。

その晩、ファンヒーターだけつけて寝た。サンウェルダは、ずっと活躍していた。しかし、8日の朝になっても、水のでるケハイはカケラもなかった。燃えるゴミを出しに、歩いていくと、青空に吾妻の白い山並みがキレイで、雪の結晶が平板のまま、サラサラ降り、光をいっぱい反射して光っていた。Tシャツとフリースだけでいて、寒くない。

「もしかすると、水出るかもなあ」と、少しくたびれた心で思った。

パンとヨーグルトと、おそうざいコロッケとコーヒーの朝食を摂り、食器の汚れをペーパーでふきとり、少しの水で歯をみがく。ゆうべ温泉行ったから、顔洗わなくていっか。

9:20、水道屋さんがやってくる。「出ませんか」「出ないです」アパート(に、住んでいるのです)の下の、地面を掘って、配管の元を出した。今回は電流用の延長コードが登場。これで元の所と、家の中の蛇口の2つに電流を流す。ベランダからコードをたらすと、無事2つがつながった。2アンペアの微量な電気。

1時間後、再び水道屋さんが見にくる。「出ませんね」風呂場の蛇口につなげ変えると、11アンペアまで流れた。たちまち、元の管が熱くなって乾いてきた。私は部屋に戻り、風呂へ行く。10分後、久しぶりの水音を聞いた。

私はたてつづけに、トイレをそうじして、風呂に水をためて、汚れていた食器を洗った。やったー。5日ぶりに、今夜はうちの風呂に入れる～。家の機能が回復すると、心も満たされてきた。水道屋さんありがとう。なんか私、また裏磐梯で、がんばれるわ。(まき)

2003年1月9日

と、いうわけで水道問題は一件落着。なお、再び凍んないように、昼間っから水道は細く出しっぱなしにしている。(もちろん水道代はかかるが)。

9日は、今年に入って一番の極上の天気だった。

そして一番寒かったかもしれない。朝8:30で、 -8°C 。

「これだけ冷えたんだから」と、午前中にレンゲ沼を渡った。ウサギとテンと私のトレースが沼の上に並んだ。「じゃあ、次は中瀬沼の裏ルートへ行く。遊歩道じゃない林と、流山をまわりこんで、例の展望台の下へ出る、私のお気に入りルートである。お客さん連れて、時々行ってもいた。これも沼の上にのれた。「あとは、やっぱし」桧原湖だ。休暇村からまっすぐじゃり道を行って、つきあたる白樺展望台の下は、入り江になっている。ここもウサギの足跡がついていた。じわりじわりと、島に向かっていく。「オッキー！」そしてサイトステーションの戻りには、カケス沼(これは一部の人の呼び名で、こう言ってわかる人は少ない)も渡る。オッキー！

満喫ツアーの幅がこれで広がるぞ。

午後は五色沼コースを往復してみた。十分、ツアー可能。冷え込みが続くなら、弁天沼も、のれそうに思う(今日んとこは、まだヤバそうでした)。いいシーズンになってまいりました。(まき)



2003年1月12日

晴の日曜、3連休中日。雪はバッチリ、湖もガッチリ凍ってる。だけどお客さん無し。

「それでは！」今年暇があったら、フィールドに出る！

コーヒーを入れて、ポットに入れる。2万5千分の1の地形図と、ペンと手帳。首から双眼鏡とカメラ。あったかいから、上は半ソデTシャツとフリースのみ。新雪に突っ込むからスパッツ着用。クロカンとストック持って、家の前の道を渡る。今回は家から中瀬沼まで、道なき道に行くことにする。

裏磐梯の中でも特に名もなき沼と、流れ山が続く複雑な地形。どんな風景が見られるのか、どんな生き物がひそんでいるのか、ワクワクする。

10:10、出発。こまめに地形図を確認しながら、頭と体にルートをとたきこんでいく。11:00、シメを見る。11:25、今シーズン初のウサギを見る。

そのあと、ヤマドリのがいが飛び去る。ウサギ、テン、リスの足跡はたくさんある。「ん～、ヤブコギだなあ…」雪もあるし、クロカンだけど、ひき返さずにルートを探すので、何度もヤブコギ。

私以外のトレースは全くない、しかし、スノーモービルのエンジン音はかすかに聞こえる山の中で「なーに、やってんだろなあ」と思ったりもするが、たのしいのである。

沼を渡り、丘に立つと、磐梯山、吾妻、安達太良の展望。「ここはサイコーだあ」とにまりしてコーヒーをのむ。

「あ、ここは見覚えがある」中瀬沼に出たのは12:20。展望台の見える下まで、沼をつきつた。

白雲荘と乙女沼を見て、剣ヶ峰のペンションの裏手を通過し、家の向かいのペンションの裏に戻ったのが1:20。

裏磐梯で、クロカンをはじめた人達が、その初期にコースを設定していたあたりである。十分おもしろい。無理のない設定で1日向けコースを考えて見ようと思った。(まき)

2003年1月19日

午後のツアーで、桧原湖へ出たら、スノーモービルがビューンとまんなかまで走っていったので「じゃ、私たちもあそこまで大丈夫ですね」とクロカンで行く。湖の中央で記念撮影。桧原湖横断も、そろそろ大丈夫かも。

18日は、スノーシューで中瀬沼～桧原湖へ行きました。AM11:10、白樺橋近くのシロヤナギのてっぺんに、赤いトリが。「えっ、何、何、ベニマシコ？」オオマシコ、アカウソ、アトリ??、赤いトリで思いつくものを頭に浮かべる。双眼鏡で見る。「お腹も顔も赤い…羽んとこ黒い…」ベニマシコやオオマシコは顔に白い部分があるが、こいつはまっ赤だ。「くちばしは？」くいちがっている!!「うわっ、イスカだっ!!」きゃー、初めて見た～!!裏磐梯でもはじめて、生まれてからもはじめて～!!「イスカの嘴(はし)のくいちがい」言いました、物事がくいちがって思うようにならないたとえにされてる、あのイスカでございます。絵にかくから、みてね。(まき)



2003年1月24日

23日、雪。24日も雪。吹雪だった。久々につもった。休みだったので、洗濯して、ダイコンの煮物つくって、麦入りゴハン炊いて、コンブとカツオ節でダシとって、みそ汁つくって、ゆづりご飯を食べた。

午後、水道代や家賃を払いに行こうと思って、雪かきを始めた。40cmくらいはある。お隣さんも出てきて、2人でせっせとやっているとき、村の除雪車が通りかかった。ドライバーは、先日お世話になった水道屋さんである。村の委託で道路の除雪を、冬じゅうやっているのだ。水道屋さんは、ガガガガ…と、アパートの駐車場の除雪を始めた。「うわー、ありがたい～」5分くらいで雪がかたづいてしまった。人力でやってたら1時間はかかったろう。

お隣さんと「あとでお酒でも持っていこうか～」と話す。残りの雪をかたしているとき、知人が除雪車で通りかかった。通りすぎてから、バックしてきて「やろうか?」という合図をしたので、「やってもらったからOKだよ～」という合図を返した。

う～ん、その気持ちありがたい。さて、支払いに行き、戻ってみると、私の車がなかった間に、その雪もしっかりどかしてくれていた。Nさん(水道屋さん)ありがとおお～。(まき)

2003年1月30日

近ごろの天気。

23日 雪
24日 吹雪
25日 雪
26日 晴
27日 吹雪
28日 吹雪
29日 吹雪
30日 吹雪

25日は、さいわい(?)仕事が無く、朝から雪かきに没頭。なんと3時間もやってしまった。一夜にして、積雪50cmくらいあったからなあ。

その晩、11:30までバイトして、次の日1日ガイドして、27日風邪ひいた。頭痛、筋肉痛(特に肩)。「葛根湯どこだっけ」飲んで寝たらたしかにそれは治ったが、ノドのガラガラはそのままだった。またまたさいわい(?)休みだったので、雪かきもせず、2日寝ていた。29日、ガイド。おっしゃー、働かずー。でも、朝の雪かきは「ゲホ、ゲホ」むせつつ、最低限(すなわち車が出るだけ)やった。

夕方帰ると、誰かが除雪車で、が〜んと雪をかいてくれていた。ありがたい〜。誰〜。29日なんて3:30で-8°C。家の水道出していたのに凍ってた。あわてて、お湯わかしてかけて、事無きを得た。

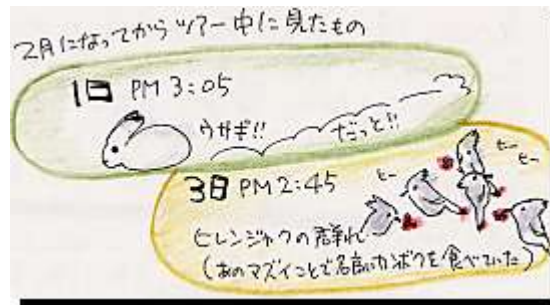
ま、そんなわけで、積雪は十分、しかも、パウダースノーです。冬らしい冬、味わいにきて下さい。(まき)

2003年2月7日

2月に入ってからの一週間は、雪が降っても雪かきするほど積もらず、天気はおだやかだ。

1月末の吹雪続きのあとの、2月2日、銅沼にスノーシューツアーに行った。「ラッセルかなあ」と心配したが、たいしてもぐらず、しかもサラッとした雪で、スノーシューの歯(クランポン)は、ダンゴにならず、とても快適に歩いた。風は無く、天気も良く、「ウサギの食べあとですよ」と言えば、「どれ?」と8人のお客さんが集まって見ることはできるし、アップダウンも誰も苦労しないし、雪原で並んで歩いたりして、「おー、ツアー全体のペースがそろうんだなあ〜」と、今更ですが、スノーシューのえらいのを認識しました。

スノーシューが雪の上でもぐらないで歩けるとは言え、全く疲れなわけではありません。登れば汗もかく。楽しむコツは1つ。ゆっくり歩くこと。疲れを感じたらすぐ止まってちょっと休むこと。山を眺め、トリの姿を見ながら。(まき)



2003年2月13日

これが雨ならば、ザア…ザザザザッ…ザツと、激しく音をたててるような、降り方の吹雪です。雪なので静かですが、「こりや積る」イキオイで、荒々しく降りしきってます。あーよかったです。

結局、2月のここまで、気温が高めで、10日から11日にかけてついに雨が降り、雪はカサを減らしてしまいました。この冬は、何度も「もう春だよオ〜」と思うような気候がやってきます。ヤナギはポワポワした芽になってます。時々、トリのさえずりも聞こえてきます。

例年も、2月の中頃から、そういう春のキザシが現れはしてるのですが、それは“このキビシイ寒さの中でも、春は着々とやってきてるんだ”とゆー、ヨロコビであるのに、今シーズンの場合、「まってくれよ、冬が短かすぎやしないか?」と言いたくなります。木々や、動物、鳥たちは暖かくなる方がうれしいのかな。クロカンで遊びたい、身勝手な私としましては、水道が凍ろうが、「冬の日よ、続いておくれ〜!!」と言いたい。だってまだ2月じゃないか。(まき)



2003年2月18日

風はないし、山はクッキリ見えていて、雪はほどよくしまっている。寒くもなく、暑くもなく、またまた「春だよ！」という天気。ツアーとしては極上のコンディション。

スノーシューでレンゲ沼を渡り、いつも行かないカラマツ林へ。幹の一部にアナがあって、マツボックリ(しかも、アカマツの)がはさまっていた。上のあたりはつつかれて、ささくれだっている。

「うーん、何かのドーブツがここに固定して食べたのかもしれませんがね～。はたまたトリがつついて食べたか」「キツツキかしら?」とお客さん。「うーん。キツツキは木をつついて虫を食べるので、違うと思うんですね。カケスかなあ…」と言いつつ、最近カケスは見えないなあ、と思う私。そのあと、アカゲラが、アカマツに飛んできた。双眼鏡で見るのだが、マツの葉の影で、姿がわからない。いることはいるんだけど…。

“冬は木の葉が落ちて、トリは見やすいですよ”というのが、冬のバードウォッチングのメリットなのになあ。そして、そのアカゲラは、マツボックリをつついているではないか。「えーっ!」またまた定説をクツガエサレル。「まあ、マツの実を食べてるのか、マツボックリについている虫(って、何かしらんけど)を食べてるか、わかんないですからねえ…」言ったものの、もしかして、新発見? やっぱ、固定観念はダメかな。目の前のことが事実だし。(まき)

P.S.『鳥のおもしろ私生活』(ピッキオ編著)よんだら、アカゲラは木のすきまにマツの実をはさんでたべるとかいてありました。

2003年2月22日

本日はくもり、風なし、山クッキリ、雪ほどほど。ツアー日和でございました。スノーシューの担当が続いていたのですが、久しぶりに休暇村のネイチャースキーを担当。夏の「裏磐梯を散歩しよう」のお客さんや、ネイチャースキー参加3年目のお客さんが来て下さいました。

夏と冬では、まるで別の国に行ったかのように、景色がちがって見える裏磐梯。これは実際に季節を変えて来ていただかないと、なかなか伝わりにくい。それだけに夏の企画に来て下さった方と冬一緒に歩けるのは、こちらもうれしいです。

リピーターの方に「また来ました!」と言っていたら、「あ～、この仕事してよかったなあ」と思います。ホントにありがとうございます。

20日、お休みだったので、1人でスノーシューはいて磐梯山山頂に挑戦してみました。天気、くもり一時雪。川上ルートから、火口壁を上がったら、傾斜のキツさに緊張したのと、久々の山登りで「あ、もう山頂ムリだあ」弘法清水まで行って、中の湯へ下り、銅沼から裏磐梯スキー場に戻りました。なかなか、ハードです。(まき)

2003年2月24日

2月22、23日は休暇村のクロカンコースや、中瀬沼あたり、ネイチャースキーや、スノーシューの人でにぎわってました。少し歩くと、知りあいのガイドに出会う状態でした。天気も、雪も、湖の氷もコンディションよかったし。

本日はお休み。177の予報はくもりのち雪。窓の外は風もなく、磐梯山もみえてるので、お弁当つくって、ポット持って、出かけてみました。

ゴールドライン(磐梯山の西側にある、有料道路。冬期閉鎖中)の入口に車を止めて、テレマークの板にシールつけて登っていきます。道はスノーモービルの跡で圧雪状態。私の板はウロコ付なので、シールいらなかったかも。10分しないうちに汗かいて、「あっ、水持ってくんの忘れた」と気づく。1時間45分かかって八方台駐車場着。くたびれたし、水分とエネルギー補給しようと、お昼を食べていたら、この日はじめての人の姿。「まきちゃん」「あれっ、すずかけさん!!」裏磐梯のバックカントリースキーヤーの宿として、代表的なペンションのオーナー。お客さんと、奥さんと猫魔スキー場から下りてきた所でした。ちょっと、うれしい。

ルートの話とか少しして、私は食べかけのお昼を食べに戻り、すずかけさんたちはまた歩いて行きました。

今日の目的は磐梯山の八方台～中の湯の夏道を確認することだったので、シールつけたまま中の湯へ。

夏もいいブナ林だけど、冬もいいなあ、この辺は。

さて、中の湯に着いて、シールをはずす。再び板をはこうとして、ビンディングが止まってくれない。たぶん、ビンディングに対して、靴のコバが厚いんだと思う。何度かこういう目にあってるので「またか」と思うけど、30分もたつてくると悲しくなる。スクレーパーで、コバの上にくびりついてる氷をガッガッガッと削りつつたら、止まった。スクレーパー、えらい。

20日にスノーシューで下ってみたルートに行く。あのあと21日にかけて1回降ったので、足跡は消えていた。

1ヶ所にうじゃうじゃ動物の足跡が付いていたので、何かと思ったら、ヤマブドウのツルに、ドライフルーツ化した実がのこっていて、ツルの元にブドウのふさの柄がいくつか落ちていた。

こがね平へ抜けて、ゴールドラインの入口に戻ったら、クラクション鳴らしてすずかけさんが通り過ぎていった。昼から予報通り雪でした。(まき)

2003年2月25日

午前中はスノーシュートレッキングで、中瀬沼、桧原湖を歩いた。ワカサギ釣りの後ろの穴で、氷の厚さを計ろうとしたら、ない、ない、ないのだ。うろうろしていると、桧原漁協のジャンパー(黒とオレンジのやつ)着たおじさんが、釣りしている人にドリルを貸りて、2つもあげてくれた。ありがとう秀峰の小椋さん。

お客さんとかわるがわるストックつつこんでみる。50cmでとこかな。今日は吹雪いてました。びゅー。

山へ行くのに、昼出発は、帰りが暗くなるから(気温も下がって、雪がかりかりになったり、体も冷えるし)イケマセン、って人に言うくせに、午後から雄子沢往復で雄国沼へ行った。スノーシューは、小さな沢を越えるのに楽だ。スキー板だとカニ歩きになる所もまっすぐ行ける。このルートは沢が10本くらいあるので、スノーシュー向きかも。でも、夏道のとおりに行ったら、急斜面トラバース(まっすぐなサワグルミの林の所)。こーゆー所はスキーのエッジの方がきくんだよねなあー、と思いつつ、ゆっくりゆっくり、慎重に進む。

この場所の直前、登っていく2人連れに会った。「今からはやめた方がいいですよ」と2人に言っていて、行こうとしている私って、何者だ。

「お先にどうぞ」と言われて必死にトラバースしてたら、2人は谷へ下りて、のんびり歩いていた。しまった帰りはあれで帰ろうっ。

1時間20分で休憩舎着。森は白く凍りつき、山も沼も白一色。空はグレー。くもりぎみだけど、雄国山のピークは見えた。あー、私、ここ好きだ。気楽に行けて、しかも別世界ムードを味わえる冬の御国沼。帰りは雄子沢へ下りて55分で駐車場へ。オオヤマザクラのくま棚発見。途中、ザブザブ沢もわたる。スノーシュー & 長靴はこういうときツヨイ。(まき)

2003年2月4日

27日に雪が降り、28日は白く凍った林と、まっさらになった雪原に朝日が射した。青空に消えてゆく、明けの明星と三日月。やった、天気サイコー。

会津若松の友人と2人でテレマークはいて猫魔スキー場から、尾根に上がる。いちどは雲がかかったけれど、ピークに立つ頃からどんどん晴れていく。

八方台へ向かうこの稜線は、吾妻連峰、安達太良山、裏磐梯一帯と、正面に磐梯山、ふりかえれば、猫魔ヶ岳、右手には猪苗代湖と、その向こうの布引山が見わたせる。う～ん、なんてゼイタクな眺め。

ゆるいブナ林を下り、八方台からゴールドラインを下ってゆく。キツネとウサギとカモシカと友人と私の足跡だけが残されていく。こがね平からの櫛ヶ峰は、「こんなにカッコイイ櫛ヶ峰は見たことない!!」というくらいに、白く、1つ1つの稜をきわたらせて、青空に映えていた。半日だけど、あそんどいてよかったあ!!

午後も晴天が続いたので、スノーシューツアーのお客さんと白樺展望台に登る。ここは安達太良山と磐梯山、そしてたくさんの泥流丘が広がる裏磐梯の森が一望のもと。夏は道がヤブに埋もれてるので、最近では登っていなかったけど、ここは私のお気に入りの場所。クロスカントリースキーの板だと、登るのはちょっとキツイ。スノーシューなら、はじめてはく人でも、てっぺんまで行ける。(ただし、ルートはよく考えて)。もくもくのスタッフになる前、遊んでいた仲間うちで、ここを「テレマークの丘」と呼んでいた。仲間たちはキッチリ、テレマークターン決めていたけど、私は、転げ落ちていたなー。斜面下りるのこわかった。今はどうだろう。今度テレマークはいて登ってみよう。(まき)

2003年3月2日

天気に一喜一憂するこのごろです。まーた、めまぐるしく変わるんだよねー。

2月28日 終日、晴!!

3月1日 くもり午後から雪、すぐ雨、夜どしゃ降り。え～っ。

3月2日 夜半から(?)雪、朝、雪の量の少ない強風の吹雪、10:00ころから強風のまま晴れあがる。またくもりそう…あ、雪だ。

今日の休暇村の、ネイチャースキーショートツアーで、ハス沼に下りました。ゆうべの雨で

ヤバイかな、私がハマるようなら退散しよう、と思ったけど大丈夫。トレースはちょっとグレーがかっちゃいましたが(水がしみてきてる色)。

始まった時は「ブリザード体験になるなあと思った」とお客さんも言っていました、雲がいきおいよく流れ、まっ青な空。そして磐梯山も姿を見せた。

「あの大きくへこんでる所から、この足元まで泥流がきたんですよ。噴火から114年。今歩いている裏磐梯の森は、100年の時間をかけて、自然に育ってきたんです」時の流れを感じながら、クロカンで、スノーシューで歩く。これこそ裏磐梯のネイチャースキーの醍醐味だと思う。(まき)



2003年3月4日

猛吹雪。ゆうべからちらついていた雪は、今朝ま横から降っていた。

午前中は仕事が無かったので、換気扇の汚れ落としをやった。キレイになると、回転が早くなったような気がした。電気の効率が良くなるかもしれない。

昼からスノーシューツアーだった。剣ヶ峰の温度表示は-7℃。久々に寒いなあ。

吹雪はちっとも弱まらなかった。でもお客さんは元気。中瀬沼は、桧原湖から小野川湖へ流れている所だけ、水面が見えている。「水が流れて動いているから、凍ってないんですよ。」「じゃあ、川の所がわかるのは、冬だけなのね。」とお客さん。あっ、ホントだ。確かに夏は沼のところも流れのところもみんな同じ水面になるもんなあ。お客さんのとらえ方に、時にハッとさせられる。

桧原湖は、更に強烈な吹雪!!すぐ引き返した。ホッペタがつめたくなったのも久々でした。(まき)



2003年3月12日

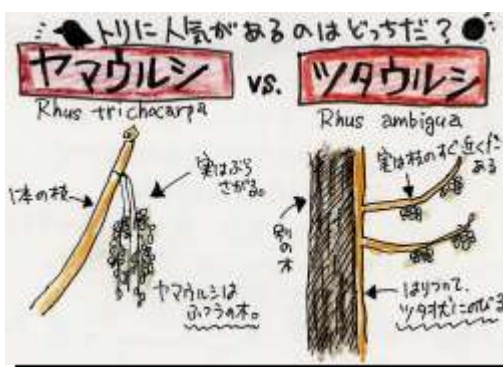
こないだイカルが食べていた場所の、ツタウルシの実、もうほとんど無くなってしまった。あのあとツグミの集団が食べに来て、その次の日は、お客さんたちと、そのツタウルシの所で、鳥とツタウルシの話をしている最中に、エナガの10羽くらいの群れが次から次へとやってきて、食べていった。肉眼で体のいろや模様がわかるくらい、近かった。

今までに、ツタウルシの実を食べるのを目撃した鳥は、他にウソ、ヤマドリ、ハシブトカラス。

裏磐梯には、ヤマウルシもあるんだけど、ツタウルシの方が人気があるよーな。

もしかしたら、実のつき方が、鳥たちに食べやすくて、いるからかもしれない、と思った。

今日は午前中吹雪。昨日までの足跡もトレースもきえてしまった。昼から青空がのぞき、陽もさす天気になる。その午後のスノーシューツアーのお客さんは自称、晴男。ホントですねー。ハンノキ林ではシジュウカラ、ゴジュウカラ、コガラ、コゲラの群れ(?)を見る。(まき)



2003年3月14日

昨日、今日とお休みだった。そして天気もよかった。「雪のシーズンは、刻一刻と、終わりに向かってるんだ。フィールドを開拓するチャンスも、失われていくんだぞ」そんなこた、100も承知。でも、気にしちゃいけない、腹が痛いのが、寝る。

今日も朝6:00から、晴れやかな光が、部屋に満ちていた。朝ごはんを食べ、歯をみがき、顔を洗う。昨日よりさらに、おもてはスバラシイ。だが「あの雪の上を歩いたら、楽しいだろうなー」という考えよりも、腹の痛さが勝る。

せめて、読書しよう。でも、それよりやらねばならないことが、実はある。確定申告がまだなのだ。

北塩原村のシステムで、「これはよい!!」と思うのが、この確定申告だ。各地区の、集会所的な所へ、役場の係の人が出張してきて、必要な書類を持っていくと、「お名前は?」に始まって、項目ごとに「〇〇を出して下さい」「〇〇はいくらになりますか?」等、誘導していき、その場で申告書を記入してくれる。私は白色申告なので、10分もかからずに終わる。会社を辞めて1年目、浦和の税務署行って、手引書見ながら2時間もカクソーした経験があるので、このスムーズさには、毎年感動する。「今年こそ、青色申告!」と思いつつ、また白で済ませることは、悔いが残るけど。

自分の地区の日に行かなかったので、車で30分の村役場まで出かけた。終わるとスッキリ。そのまま喜多方へ下りて(役場からは10分弱)、ガソリン入れて、本屋行って、スーパーで買い物した。ここは雪がナイ。まだ明るかったので、帰りはアララギ峠越えを試してみた。路面が雪で白い。峠の上から、喜多方盆地が広々と見渡せた。「近いうちに、スノーシューでこの辺の山を歩こう」と思った。(まき)

2003年3月16日

日曜がお休みだと少し悲しい。まあ、いいや、天気もいいし、体調も戻ったから山へ行こう。できるだけ人の行かない所へ。先日ネライをつけてた、アララギ峠から高曽根山(1443.2m)だ。

いつもどおりに朝ごはん食べてから、地形図見てルートを考える。山頂付近の等高線の狭さが「つらそーだ」。どれくらい時間がかかるのかも不明。地図をにらんでいても、よさそうなルートが見えてこない。「いいやー、行っちゃえ」お弁当を作って、スノーシュー持って出発。10:15と、のんびりしたものである。日曜日の午前中、家でのんびりするの好きなので。(でも、山へ行こうってヤツがこんな態度では、ろくな目に合わない。結論から言うと、高曽根山には、たどりつけませんでした。)

アララギ峠の道端には、4台の車が止まっていた。他県ナンバーもある。「うー、こりゃ、高曽根に行ってる」じゃー、私は大塩峠から入ってみよう。広めの待避所のはじっこに車を止め、10:55出発。はじめはミズナラの林、途中から立派なブナ林に変わった。雪は適度に締まっている。気温が5°Cなので、やわらかい。クランポンがしっかり効くし、雪がダンゴにならないという、歩きやすさ。いいなあ。

手がかりは、地形図だけ。さいわい晴れているので、きっちり位置確認しながら行く。それにしても、遠いなあ。いくつもいくつもピークを越えたのに、高曽根は見えてこない。とあるピークに登ると、ようやく高曽根が見えた。でも、まだ三山くらい越えなきゃたどりつかない。

「今日はここまで!お昼にしよう」それにしても、ここはなんていい所なんだろう。西大巔、西吾妻、安達太良、磐梯山が一望だ。少し尾根を反対へいけば、飯豊に喜多方盆地だってみえる。そしてなだらかなスロープ。風がないので、展望をほしいままにして食事する。双眼鏡でのぞくと、高曽根山には黄色いツェルト1張りど、人影が見えた。4:00に車に戻り、松原の温泉に入って帰宅した。おもしろかったな。(まき)

2003年3月19日

きのうから彼岸に入りましたね。福島の中でも会津地方は、春のお彼岸には墓参をしないそうです。「雪がまだあるから」なんだそうです。たしかに。裏磐梯は、4月中旬まで(スキーができるかはともかく)、雪があります。お彼岸は松原湖などの氷が、ゆるみはじめる頃です。

3月上旬に、暖かかったので、「シーズン終わりかなあ」と思ってましたが、時々寒くなったり、雪がまた降ったりで、休暇村のクロスカントリースキー場も、まだOK。今日はハス沼に下りてみましたが、水がしみることなかったです。昨日の五色沼のツアーも雪のコンディション上々でした。弁天沼にもまだのれました。でも、皆様、そろそろ用心して。

休暇村のコースの途中から、「パン工房ささき亭」にクロカンなどで行けます。ただし雪がしっかりある時期限定(それ以外の時は、フツーに道路から行く)。

今日お昼を食べに行ってみました。途中小さな川の小さな橋を渡り、適度なアップダウンを滑り、パン工房の目前は急登(ツライ人はカニ歩き、もしくは板をぬぐ)。お彼岸くらいに、通れなくなるのですが、まだ大丈夫。楽しいルートです。

お店の窓辺で食事しながら外を眺めていると、敷地の木にアカゲラがやってきました。バードウォッチング・ランチだわ。

それにしても、春は別れの季節なのだなあ。個人的な話ですが、名古屋の劇団「プロジェクト・ナビ」から最後の公演の案内が届きました。高校生の頃から、会社員になっても、この

劇団の芝居を見るのは、とても楽しみでした。東京公演しか行ったことなかったけど、名古屋と伊丹でしかやらないみたい。よし、5月には名古屋へ行くぞ!(しかし、淋しいなあ…)。(まき)

2003年3月20日

先々のスケジュールが決まってきて、チャンスが失われていく。今日は朝から雪が降りだしたけど、高曽根山に行くことに決めた。午後晴れるとの予報、でも道もわからない、コースタイムもわからない山に昼から出発したくない。

アララギ峠を9:40に歩きだした。林道は車が1台通れる幅がありそうで、快調に進んだ。スノーシューは、くるぶし程度もぐる。思ったより雪は軽く、案外に楽に歩ける。地図と照らし合わせつつ奥へ奥へ。地図がとても正確なのに感心。たまーに赤布が枝に付いているので、「これでいいんだな」と安心する。

さて、地図によると、林道が終わるあたりだ。地形を読みつつ、行かなくちゃ。ところが、この肝心な所に赤布が見あたらない。「う、まちがったかな…」と行きつ戻りするがわからない。

自分の読図能力を信用して「もう、これでいい!!」と進む。雪は降り続き、あたりは白く、遠くが見えない。そして、ここからは、ひたすら斜面を登ることになる。

体力の心配ないけど、ルートが当たってるのかどかが不安。「この辺で、帰ろうかなあ…。また天気の良い日に来よっかなあ…」弱気になるのを「いや、また次があると思って、チャンスは無いかもしれないし」と考えないしたりする。めずらしく、1人で来たことが、こたえている(もちろん他に誰もいないのだ、今日のこの山域には)。

そんな折、大きな風格のあるブナに会う。「うわあ、すごい…もう少し行くかあ」ついに、再度赤布発見。「やったあ、あってるー!」すんごく、うれしい。しかし、急だなあ。くそー、あきらめるもんか。高曽根山のピークは、木がなくて、雪が白くつもっているだけだった。「てっぺんだ!」展望はないけど、達成感は十分。

2:00に車に戻ったら、青空が広がった。あう。(まき)

2003年3月23日

お彼岸3連休が終わった。3日間働いた。不思議なくらい、風もなくあたたかく、連日天気良かった。来ていたみなさん、よかったですね。

私の友人達も遊びに来ていて、帰る日に猪苗代でソバを食べて、その店で別れた。「あー、終わったなあ」と、充足感と少しの淋しさを感じながら、ひとり裏磐梯へ戻る。まだ、2:00すぎ。

思い立って、サイトステーションへ行く。そこから、から身でクロカンをはき、桧原湖横断を試みた。

今シーズンは、昨シーズンよりも、雪や氷がもっている。降雪量は少なかった感じだけど、細く長くというか。

向こう岸にたどり着き、道の駅へ行って、絵ハガキと気に入った竹編みの小さい弁当箱を買う。缶コーヒーで、小休止。

ザックなしなので、手さげビニール袋に入れてもらった買物を、ウェアのポケットのチャックについているヒモにしばって、桧原湖を戻っていく。まんなかへんの島で、てっぺんにこしかけて、夕焼け空と磐梯山、安達太良、吾妻の風景をしばらく楽しむ。ネイチャースキー、スノーシューツアーの人達も、ワカサギ釣りの人達も帰ってしまった。静かな桧原湖。頭の上の、まだ青い空に、木星が光り出す。一番星だ。わずかに西風が吹く。少し寒くなったので、フードをかぶった。

日が暮れた。サングラスをしまって、島をおりた。この下り、失敗。ザラつきだした雪に顔面からつつこんでしまい、なめてみると、すった所から血が。うーむむむ。だけど、これ、楽しい。

“朝焼けクロカン”とか“星見クロカン”もおもしろそう。今月いっぱい桧原湖もつかもしいから、また来てみよう。(まき)

2003年3月25日

21日の朝降って依頼、連日晴れている。今日はいくもりだったけど、風もなく、山はよく見えていた。雪はしまってるし、お彼岸すぎたのに、沼や湖の上も歩けるし、ツアー日和が続く。本日、桧原湖の氷、60cmくらい。

午前中は、福島市から1人参加。でも、生まれ育ちは香川県。「へー、それじゃ、雪ないですねー」「2年前にこっちに来て、本屋で『スノーフィールドの楽しみ方』(もくさんの書いた本)見

つけて、こんな遊びあるのかって。なんだ、こんな近くでできるのかって分かったので来ました」「日帰りできますからね。また来て下さい」

午後は、はるばる大阪から、1人参加。オリエンテーリングをやっている方でした。湖の上やら、中瀬沼の展望台やら、小さな流山(磐梯山の爆発によって流れてきた、泥流の丘)のある森を歩きながら、「1万分の1の地形図作ったら、おもしろいやろな」と喜んでいる。いろんなお客さんに会うけど、こういう喜び方する人もいるんだなあ。

「大阪まで、どうやって帰るんですか?」「猪苗代から東京まで鈍行で、東京からガキドンに乗って、明日の朝大垣に着いて、大阪に戻ります」、「ひえー、長旅ですね!!」もちろん、この人は“青春18きっぷ”を使うのだ。知ってますか、これ。JR全線、鈍行か快速なら、乗り降り自由で1日、どこまでのっても、2000円くらいなのです。私もよく、これで東北を旅してきました。(年3回発売される時期があります)。しかし、“ガキドン”(=大垣⇄東京を夜走る鈍行列車)てのは、初めて聞きました。おもしろいっすね。(まき)

2003年3月26日

休日。くもりっぼいけど(春がすみと言うのだろうか?)、陽も差すし、風もない。よし。

3月16日、20日に続いて、また高曽根山にスノーシューピークハントに出かける。20日にピークに立ったものの、展望ゼロで、「本当にそうだったのかなあ」と一抹の不安もあったので。本日も1人です(そして誰にも会わず)。

前の2回とも別ルートだったが、今回また違うルートから入った。9:00頃歩き出す。

1250m付近までは「楽勝〜!」と思っていたが、そこから見上げるピークの急なこと。「今日はムリかしらあ」と、とても弱気になる。

2万5千分の1地形図上では、尾根をつめて行けば、ピークに立てるはずなのだが。「こ、こんな岩、地図にでてないじゃんか!」しょうがないので、ナダレの跡がある急斜面をトラバースして、まいた。思わず左手を、ストックやめて雪につきさしながら進みましたよ。体がすくんだなあ。でも、私が歩いているルートは、誰かの古いスノーシューの跡があるのです。「誰かしらんけど、人間が行ってんだから、私も行けるハズ」だけどもカモシカの足跡も、そのスノーシュー跡のどこについてんだよね〜。「うーん、カモシカ道か…」さて、弱気になってから1時間後の13:10。「いやったあ〜、てっぺんだあー!!」高曽根のピークって、ホントに「てっぺん」て感じがする。木がなくて、どっち向いても一番高い所なのだ。展望はもちろん、360°。ピークが小さめなので、ほとんど移動しなくても見渡せる。ここも風が無い。「すげー」寝っころがったら青空。最高のおひるね。

わずかに下りた所に、20日にお弁当食べた、ブナの低木があった。「やった、間違えない!!」2度目のピークハントだ。登ったルートを下るのがこわかったので、20日に登ったルートを下った。「楽勝」よくばって。途中から新ルート開拓したら、地図読み違えて、登りより、オソロシ下りになってしまった。(まき)

2003年3月27日

本日もおだやか。2月に挑戦して、弘法清水までで引き返した、磐梯山に再トライ。今シーズン初の登山靴+スパッツ+スノーシュー(私は、いつも長靴で、スノーシューをはいている)。結局、雨の日の登山並に足はぬれましたが。

9:25、裏磐梯スキー場のリフト上で、スノーシューをはいて出発。冬のツアーでおなじみの銅沼を見て、中の湯へ上がる。ここから弘法清水までの斜面トラバースが、冷や汗をかきかき、身も細るオモイで「ここさえ楽なら、お客さん案内できるんだけどなあ」。

2月には、イエローフォールの上の尾根から、火口壁を登る、“川上ルート”で登って「これは、人を案内するの、ムリ!!」と思った。余裕を持って、山頂へ向かえるのって、猪苗代スキー場からのルートだけなのかなあ。冬に歩いてないから、なんとも言えませんが。(う〜ん、歩いてみるか…)

12:00頃、お花畑の標高の所へ上がる。弘法清水へ寄らないで、まっすぐ山頂アタック。でもキツイ。途中で休み休み行く。展望はずーっといいし、風が無いし、あったかい。雪はザラメになりつつあるが、さほどもぐらない。クランポンに雪はつかない。「これって、条件最高じゃん。これで山頂踏まないんじゃ、いかんでしょう(他の人はともかくね)」と思いつつ、やや高所恐怖症ぎみなので、しょっちゅう足がすくむ。

「ヒエー、こんなとこスキーですべてるー!!」(この人のトレースはピークまでありました)今日も、高曽根のノリである。「私だって、負けてらんないっ!」山頂13:14着。あのガレガレが、全部雪に覆われてました。「ありがとうございます。無事山頂までこられました」磐梯明神の祠に手を合わせましたね。弘法清水に下りて昼食。誰かが清水を深い雪の中から掘り出していました。4:20、スキー場着。誰にも会うことなかったけど、カモシカに会えました。(まき)

2003年3月29日

午前中の、スノーシューツアー。アオゲラ、アカゲラ、コゲラ、コガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラをハンノキ林で見た。キツネとウサギとイタチとテンの足跡を見た。レンゲ沼を渡っていると、少し足がめりこむ。「今日で、氷の上歩くの、おしまいかもしれません」。

28日の五色沼のクロカンツアーでは、弁天沼の氷がとけていた。沼のまん中に突然風が吹きつけて、青い色がパーツと広がって見えた。おもしろくて、見とれてしまった。

午後、仕事がなかったので、裏磐梯スキー場から、中の湯へ上がり、ブナ林を下ってこがね平の下へ出た。久々のテレマーク。う〜ん、滑るの楽しい。

28日に、一週間ぶりの降雪があって、トレースが消えていた。夏の登山道の時や、冬のスノーシューで磐梯山頂へ上がった時に見えて、気になっていた湿原(?)へ行ってみた。動物の足跡すらない、雪原になっていた。スキーで登るのしんどかったから、次はスノーシューでくるといいかなあ。(まき)



2003年4月1日

あちこちの南斜面は、土が出て、フキノトウが咲きはじめている。「いつまでスノーシューや、スキーをはいていられるだろう」と思う。今日も快晴無風。そして休日。

お弁当にポットにコーヒー、カメラと双眼鏡、地形図とボールペン、念のためファーストエイドキット、ちり紙、ゴミ袋、てぬぐい、非常食のおかし少々、500mlペットボトルに水、オーバーグローブ(時々、これをはめて、片手がアイスアックス状態になるのだ)、替え手袋と防寒用としてマフラー、固形ワックス、スクレーパー(でも、3月26日に高曽根山でポケットあいてて失ってしまったので、今はない)、厚手の小型銀マット、フィルム、ケータイ電話、リップクリーム。以上、私の1人あそびの標準装備。これをウエストバックとポケットにつめて、冬用ウェアを着て、スノーシュー or クロカン or テレマークをはいて行く。そして車には、温泉に行くための用意をつんで出る。



高曽根山がよいをはじめた頃から、桧原方面へ山歩きに行く時は、だいたい「湖望」という村の温泉に寄って帰ってくる。村民200円(村民ではない場合、400円)。小さいけど、きれいで、体があったまるので気に入っている。今日は回数券(12枚2000円)を買いました。

桧原湖西岸の桧原集落と細野間は、冬は除雪しないので、通行止めになる。「雪あるだろう」と思って行ったら、なんと除雪されていた。しかも、ゲートがあかない。しかたなく、スキーをかついで、皮靴でガコガコ歩いて野鳥の森入口へ。

「サラ」と、雪のおちる音に目をやると、カモシカが!!しかも、2頭!!逃げないので、シャッターを切る切る。1時間近くも歩いたかいがあったのかも?で、1149.5mの八森山へ行ってきました。トレースゼロ。吾妻、安達太良、磐梯、雄国山、喜多方盆地に飯豊に高曽根山が一望。スバラシイ。まあ、山頂までブナ林だから、木の間越しですが。(まき)

2003年4月2日

昨日の夜、地形図を見て、「どーしてもこの尾根が気になる」と思ったので、また八森山に行った。

雨が降るというから、少し早めに、8:00に家を出る。急登もありそうなので、スノーシューだ。トラバースは、テレマークの方が、エッジが効いて、やりやすいけど、急な登り下りは、私はスノーシューの方が早い。

別ルートから進んでみても、八森山に近づくにつれて、立派なブナが増えていく。でも、反対斜面は、カラマツやスギの若い植林が一面に広がってたりする。それで、明るかったり、展望がよかったりもするんだけど。ピーク直下が、やっぱり急斜面だった。「ここまでの尾根のブナ林歩きで、満足したから、今日は



ピークはいいかあ」と、いつもの弱気が出た。2分くらい、じーっとしていたけど、結局、一歩一歩足を出していた。

ピークには、昨日の自分の跡が残っていた。11:00前だったけど、早弁。

野鳥の森細野口へ向かう途中、やっぱりパラパラ降ってきた。尾根の林で、マンサクが咲いていた。(まき)

2003年4月7日

遊ぶ時、「天気良ければ、山へ行く」と言っていたのは、「安全に家に帰ってくる」ためなんだけど、4月5日、6日の雪や風の日にも、また山へ行きました。「悪条件をクリアして、安全に帰ってくる」(前提として、やっぱり天気悪いなら、山へは行かない事が大事だが)ことも、私には必要だと。

無事には帰ってきましたが、心の底にずしーんと、「人は自然にはかなわない」という思いも残りました。「わずかでも、あなどっちゃだめだ」

今朝は5:40頃、日の出でした。赤い丸い太陽が、冬のさなかより東の山から昇るようになりました。(もう少し南東だった)。ウグイスが「ホーホケキョ」と鳴くのを、その景色の中で、この春はじめて聞きました。(まき)

2003年4月11日

バスを待つなんて、すごく久しぶりだった。この4月に、裏磐梯ー喜多方間の路線バスが運行をはじめた。「これ使ったら、雄国沼の冬のツアーも、夏の登山も、行き帰りのコース変えられておもしろいよな」いまやっている、もくもくのツアーは車を回しておいて、行き帰りを別コースにしている。

個人で車1台で来た人も(私はあそびは1人で山に入るので、まさにこれ)、電車、バスを利用していた人も、雄子沢とラビスパに停留所があるので、山下りて、温泉入って(そのまま帰る人は、喜多方でラーメン食べて?)くることもできる。「う～ん、いいなあ」…さっそくためしてみたってわけです。

雄子沢からスキーで雄国沼へ。途中、沢(雪融けで、増水して流れも早い!)を渡ることになっちゃったので、もう、夏道歩いた方がいいでしょう。やーたいへんだっ—。

沼には誰もいなくて、青空と、雪景色と静けさを1人占めしてお昼をたべた。

雄国山の稜線に上がって、「おおー!」見ごとな、白い飯豊。喜多方の街に全然雪が無いので、ひときわイゲンがある。

飯森山(飯豊の東)も白い。かっくい～。

ラビスパへの下りは楽しい。でも最後の「熊落としの谷」は、私が落ちた。

ま、誰も見てないので、私はスマシテ、バスを待っていた。「運転手さん、クマ見ましたあ?」「…イヤ～、まだですねえ」運行前に、見たことあるそうです。「カモシカやタヌキも見ますよ」ふふふ、野生動物に会える、バスですよ。(まき)

2003年4月13日

11、12、13と3日連続、雄国沼へ。12日は、休憩舎に泊まりました。貸し切りでした。

沼の上へテレマークで行くと、70cmの氷の上に、5cmの水がたまっていて、「ピシャーツ、ピシャーツ」と水をけたててスケーティング。土手は土が見えて、まだつぼみのフキノトウ。おそらく夜も0℃以上だったのでは?あたたかな晩でした(風は強烈でしたけど)。ラビスパの入口の湿原に満開のミズバショウ。露天風呂であびた風は、春のものでした。(まき)

2003年4月15日

裏磐梯の知人と2人で、雄国ツアーを決行。4月に入って、これで6回目だ。何度行っても、雄国って楽しい。

しかし、今日はいきなり試練がまちうけていた。猫魔スキー場の“雄国第1Aトリプルリフト”が運休だったのである。「Tさーん、登りです～」隣のロマンスリフトで中間まで行き、あとはひたすら登る。うう。20分かかって1349mピーク着。

沼へ下る途中、2回ウサギと出会う。少し白から茶色へ抜けかわっていた。ダウンヒルも20分。沼の上の水は、なくなっていて、まん中まで滑れた。

ラビスパへ下る“熊落としの谷”は、雪がやわらかくなって、私にとっては滑りやすかった。

最後は沢、流れてるし、ヤブ出てるので、スキーをぬいだ。あもしろかったあ!
次の雄国行は、夏山装備かな。(とか言って、しつこくスキーで行ったりして)(まき)

2003年4月23日

落も花を持ち、水芭蕉も顔を出し始め散歩の足元にも小さな花が可憐にひっそりと顔をだし、鳥も踊ってるよ。ペンションの裏庭の古木に赤ゲラが三羽、朝食を探しにきてたよ、キセキレイ(だと思)もペンションに巣作りに忙し様。
山も残雪と木の芽の色付きの交代は未だ、猪苗代に桜たより、コンナンデス。(すえ)

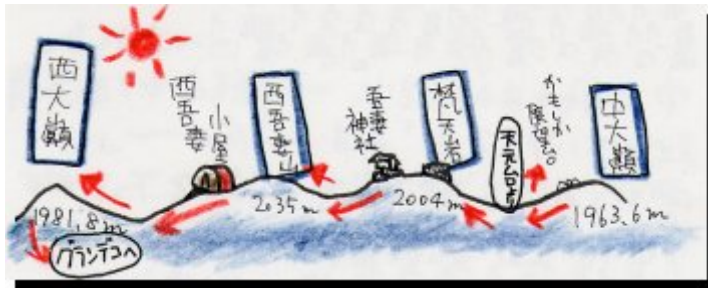
2003年4月28日

4月中旬は、実家の浦和や、東京をうろついて、関東の春をたのしんできました。
秋川でオオバギボウシ(ウルイ)や、ノビル、シオデも味わったりして。ヨモギの天ぷらもイケました。
4月21日にこっちへ帰ったら、久々に雪が降ってました。そのあとは、“春雨”が続いてましたが、昨日、今日はポカポカしあわせな陽気。
今、北塩原村のあちこちで、ミズバショウが満開です。桧原湖一周ドライブしたら、きっとどこかで目にしますよ。なにげない道端にもあるし。
今日は猪苗代へ、しばらくぶりに下りました。ソメイヨシノが散りもせず、満開!!
♪「サクラがとってもきれいだから～、遠回りしてかーえろー」と、秋元発電所をわざわざ回って帰りました。いやあ、日本人で良かったなあ～。(まき)

2003年4月30日

きのう、天元台(米沢)からグランデコへ下る、吾妻テレマークスキーツアーに行ってきました。25日に開通したスカイバレーは、フキノトウだらけ。米沢側の不動滝は水量が多く迫力でした。

1,820mのリフト終点に10:00。スタートのオオシラビソ林の登りがちょっとツライ。



カモシカ展望台近くは立木がみっちり混んできたので、板をぬいで、夏道へ出ました。
中大巖をまわりこむと、一切経山から西大巖までの大パノラマ!!「おおー、広い～」
雪が消えてる梵天岩を目指して下って、のぼり返す。「この登ってる斜面、下れたらおもしろいねー」と、メンバー3人とも思う。そう思うことがその後もしばしば…。「うーん、これ、グランデコから、天元台へ下る方が楽しいかも…」
西大巖のピークは登ってみたけど、夏以上にどこがてっぺんかわからない。もう、いややと、西吾妻小屋で昼食。ウソのつがいを見ました。
展望はやっぱし西大巖。最後は営業終了したデコのゲレンデ3人でかききり!
雪もよし、シールなしで(ウロコ板で)OK OK。
3:00にデコ駐車場着。サイコー。(まき)

2003年5月1日

今朝方まで天気が荒れた。「ゆうべはヒドイ風だったなあ」と6:00ころ外を見ると、ひょえ～、雪がうっすらつもっている!そして、寒い。

でも、シーツとふとんカバーと、肌かけを洗たくして、風にあおられてまともに干せないけど、ムリヤリ干して、クロカンのしたくをして9:30に家を出発。洗たく物をとりこむまで、今日は浄土平をすべってくるのだ。

兎平駐車場に車を止めて10:20に歩きだす。
一切経山の登り口まで雪はなし。酸ヶ平小屋で少し早めの昼食にする。11:25、すっかり木道の出ている夏道歩いて鎌沼へ。いつも思うんだけど「ここってカナダみたい」(って、カナダへ行ったことないよ～)と、今日も思った。

沼のほとりから板をはき「谷地平が見たい!」と、うろうろして、とうとう前大巖のピーク直下

まで登ってしまった。が谷地平は見えず!!
前大巔ピークはヤブにはばまれ立てず。うーん残念だ。(まき)

2003年5月4日

今日は、早稲沢で「熊まつり」があって、行ってみました。“なんなの～?”って思うでしょ。私もそう思って。

10:00～11:00ころ、「熊狩り」の実演やったそうです。じいちゃんが熊の毛皮(もちろん早稲沢の人が前に捕ったもの)かぶって、四つ足で(こりゃ大変ですよ)森を逃げ、追っ手(「せこ」という)や鉄砲(モデルガンで代用)打つ人に役割が分かれて、実際に狩りに行って人が、それを解説したそうです。山菜の販売とか、大根そば、熊汁、“やせうま”(あつという間に売り切れたそうで、私は見ても食べてもいない～)、いwanaつかみどり、桧原湖のワカサギのからあげ、雪で冷やしたビールなんかも、売ってて、なかなか楽しめました。

来年もやるようなので、ぜひ、みなさんも行って見て下さい。こんどは「熊狩り」ぜったい見たいっ!(まき)

2003年5月6日

裏磐梯が日ごと色に染まって来るよ!野鳥を見るにも見やすく、山菜もそろそろ種類も豊富、酒のつまみにちよいと!

巣作りしているキセキレイ?も頑張っている様子。

三十年代の軽(ライフ)でドライブ桧原湖一周、遅咲き水芭蕉、山桜、我が家のチュウリップが見頃。(すえ)

2003年5月6日

4日の晩、近所の家で夕飯を食べていたら、電話が鳴った。「今、小野川温泉にいるんだけど～」「え～!1時間半でとこだな～。おいでよ～」

突然、夜の10時にすぎに友人が2人遊びにきた。3時頃まで(なぜかコーヒーを飲み続けて)本を見たり、しゃべったりする。

5日は桧原峠へ出かけた。4月3日に発見したカモシカの死体を見るのである。

完全だった体は、骨と少しの毛に変わっていた。友人はカモシカにも詳しい。

「何歳かなあ」「オスの20歳以上だね」やっぱりすごく長生きのカモシカだったんだ。

桧原峠に登り(ヤブこぎだった)、県境のクマ棚の下で、お昼を食べた。

「ツツドリが鳴いている」今年初だ。

湖望で温泉に入り、道の駅でオオヤマザクラをながめつつヤマブドウソフトを食べ、レンゲ沼一周してから、友人たちは帰っていった。

こんなに楽しいGWは生まれてはじめてだ。(まき)



2003年5月8日

「野鳥の森の入口の白い花は何ですか?」と知人から問い合わせがきたので、雨風にもマケズ、現地へGO!すぐケータイで返事。「サンカヨウで、合っていましたよ～」

カメラと双眼鏡、カップとカサだけで、奥の池まで行ってみる。アオサギ3羽、アカゲラ、アオジ。アにつく生物ばかりいる。アズマヒキガエルの産卵現場も目撃。彼らはミズバショウのちかくのドロドロなとこで、出産(?)していた。ニリンソウ、スマレサイシン見頃。キクザキイチゲは、天気が悪くてうつむいてた。

オオヤマザクラ、タムシバ、ブナの新緑、きゃーステキー。きのうまで夏みたいだったし、午前中はあったかかったけど、4:00すぎ、6°Cに、ぐ～んと急降下。レンゲ沼から白いゆげ(?)が立ちのぼってました。

防寒着はかならず!!これが裏磐梯!!(まき)

2003年5月10日

クリーンキャンペーンで各施設(組合)のゴミ拾い、ごみが少なくなっているのは、来た人が少ないのか、マナーが良いのかは？

キャンペーンをしなくても良くなるのはいつかな。

裏磐梯は街道脇に交通安全週間みたいたんぽぽが満開、気を付けようたんぽぽと脇見運転。(すえ)

2003年5月11日

磐梯山山開きです。くもりです。少一し寒いです。家にいようかな。

きのう、ヤカンがこわれて、足に熱湯がバシヤ!「えっ、何、何?」やけどなんて、なんてことないさ、と思ったけど、くつ下ぬいで水で冷やす。赤く水泡ができる。

それから3時間、レンゲ沼あたりの下見をやったら、「う…ちょっと足がイタイかな」土曜日の午後にやってる病院へ行き、なんこうぬってもらう。

たいしたことないけど、私の仕事は歩けなきゃオハナシにならないからなー。大事をとりました。

で、すぐ、同じヤカンを買ってきました。(コリないのさ)

「※警告 取っ手…など破損したら、…使用しないでください。脱落などによる火傷の危険があります」取扱説明書にかいてあった。ホントだわ～。(まき)



2003年5月12日

ゆうべから、サーサーと雨。家を出発する時も降っていた。やがて、くもり。雄子沢から雄国沼へ向かう。登山口はブナのやわらかな黄緑の葉がたっぷり。登っていくにつれ、残雪、オオヤマザクラ、ひらきはじめの新緑。沼のあたりは、まだ冬のグレートーン。それでも「春めいている」のは、冬芽をはずしかけてる木々の銀や、赤茶の芽吹きのみざしとか、枯草色の湿地に、ニッコウキスゲの若葉が見えるから。

ショウジョウバカマ、ニリンソウ、エンゴサク、スマレサイシン、オオタチツボスミレ、リュキンカ、ヒメイチゲ、オオカメノキの花。

ジュウイチと、ツツドリの声。シジュウカラ、ヒガラ、コガラ。ウグイス、センダイムシクイ、ヤブサメの声。

コマドリもなっていた。カケス、トビ、アカゲラ、マガモ、ヒヨドリ。

シーズン初の、ヤマナメクジ1、2、3、…、7匹。登山道のまん中に、アズマヒキガエル。(まき)

2003年5月14日

何時の間にか我が家から曾原湖が見えなくなり、至る所、萌黄色と新緑に覆われてる、野鳥観察が初心者には大変!

運転も山、道路脇、川辺、ノロノロ車、と目が忙しい!

風も心地よい(木陰になるとちょっと肌寒い)とってもゆったりとした気分!(すえ)

2003年5月16日

雨が降ったり晴れたりでしっとり鮮やかな新緑、我が家の花もみずみずしい!

よく観ると双子のチュウリップ(影絵の鳩の様?)

キセキレイも慌ただしく出入りするほど虫を運んでる、ん! 卵を産んだのか、一羽が巣に座ったまま。赤ゲラは明日早朝来るかな?

観察が楽しい一日一日だよ。(すえ)

2003年5月18日

風が少し肌寒いなかめいの散歩、休耕畑や土手、丘にたんぽぽが咲き乱れ、つばめも忙しそうにさえずり、じゅんさい沼にあおさが何かを見据えてたってる。
遠くからうぐいすの鳴き声、ゆったりとした流れがこちいいねえ。(すえ)

2003年5月21日

何時の間にか我が家から曾原湖が見えなくなり、至る所、萌黄色と新緑に覆われてる、野鳥観察が初心者には大変！
運転も山、道路脇、川辺、ノロノロ車、と目が忙しい！
風も心地よい(木陰になるとちょっと肌寒い)とってもゆったりとした気分！
買い物の帰り道フワフワと漂っているたんぽぽの種、風に乗って宇宙遊泳を楽しんでる様、裏磐梯はまだ満開なのに！(何故か映画の「ユタと楽しい仲間」を思い出す)
かえるの泣き声が聞こえる昨夜雨が降ったから？
猪苗代からの道はウワズミザクラがよく観られるよ。
ピンク、黄色から白の花がみずみずしい新緑が目につく(季節の変わり目が面白い)(すえ)

2003年5月22日

学生たちのガイドの季節がやってきました。今日は中学生200人と磐梯山。
八方台の登り口はらくちんですが、下りは銅沼経由で、桧原湖畔まで歩く。生徒も先生も、よく歩きますよね～。
「疲れたよオ～」
「あたりまえだよ～。疲れることやったんだもん。でもいままでやったことないこと、自分ができたってのが、すごいじゃん」
登山口が新緑、中腹はサクラに、オオカメノキ、ムラサキヤシオとタムシバ。時々雪の上を歩く。1日に夏・春・冬を見る。
火口壁の気流によって、アマツバメ飛びかう。沢浴いで、オオルリが姿を見せてくれた。生徒たちも見られた。よかった。
「磐梯山ってたのしい」君のひとことは、とってもうれしいよ。(まき)



2003年5月26日

毎日、キセキレイの囀りで目が覚め、窓ごしから餌はこびをたのしんでいたのが、二十五日お昼頃から気配しなく覗くともぬけの殻！

巣立ちに立ち会いたかった(前日に巣を覗くと小鳥が置物のように四羽固まってこちらを見て)心寂しいねえ。春ゼミが泣き始めてる。(すえ)

2003年5月27日

早朝我が家の主、柳(雲竜柳かな?)に鳩ぐらいのアカゲラが来る、太り過ぎアカゲラと思いやオオアカゲラ!初めての来訪。

気分良くめいの散歩、クロアゲハチョウ(何かは?)が、つつじで朝食。

我が家の皐月は昨年、東京より引越し咲くかな?春ゼミが夏を呼ぶかの様に賑やか!(すえ)

2003年5月27日

5:00に目が覚めたので、米をといで、タイマーかけて寝た。7:00頃炊ける。

6:00、また目が覚めたから、コーヒーを入れようと、お湯をわかす。

暑くもなく、さわやかなので、「お湯がわくまで」と長ぐつはいて、家の前へ行く。ヤブに、ウドが出てははずだから、今朝はコーヤドーフとウドのみそ汁だ。

太くて伸びたワラビが出ている。また、一握りとれた。前回のより物がいい。

きのうまで、長野の友人宅へ行っていた。そこのワラビは「もう終わりだね」という話だった。この辺はまだ、しばらくはいいのが出そうだ。

ウドの先っぽを少し折った。これで十分。

近所のおじさんが、犬の散歩で通りかかる。「おはよーございまーす」ヤブの中から声をかける。「ウド、出てるだろ〜」「うん。ワラビも〜」

さあ、いい天気だ。今日もしごとがんばろ。(まき)

2003年5月29日

28日、「西大巔に登ってこよう!」と出かけた。1人で行くつもりだったが、裏磐梯の遊び仲間であるTさんと2人で行った。

デコ湿原の駐車場9:15スタート。9:40、湿原で、トビが舞い降りてきて、ネズミ(?)を捕獲するのを、まちかで見ると。トビって、人のこと平気なの?

布滝で昼食とり、12:10、いよいよ山頂を目指す。このルート、かなりラフ。私は人のケハイが薄いから好きだけど。

三合目、四合目、五は不明で、六合目の札のあと、地面は一面の雪になる。登山道の目印もない。

「3:00に、ピークに立てなくても、戻りましょう」と決め、登っていくが、「メジャールート(デコからの道)で行った方がまいちがいないな」と、途中からトラバースした。

3:15、めでたくその赤印を発見。「Tさん、ピーク行ってみますか?」

「行きましょう」

少し長めの休けいをピーク手前でとり、3:40、西大巔に立つ。

「うれし〜!」展望もGood。いや〜楽しかったー!

「これって、スリリングね」と途中でTさん、言ってたけど、私もそう思ったね。(まき)

2003年6月1日

5月末に、ノドが痛くなった。声が出しづらくなる。ハナミズも出る。熱も出る。1日中、寝ていた。次の日、治らないので、病院へ行った。耳が聞こえづらい。医者に症状を言うのもしんどい。「見りゃわかるでしょう!」と言いたくなった。でも言わない。ハナからカメラを通してノドを見てもらう。吐きそう。「左の声帯の動きが悪いですね」ふ〜ん。「はれはひどくないです」ふ〜ん。ふだん丈夫な分、たいしたことなくても、ダメージがい大きいみたい。

薬を処方してもらい、スーパーで食料を買いこんで、家にこもる。安静。

夕方になると、熱は上がった。「あ〜、つらい」てぬぐいをぬらして、おでこにのせると、少しホッとした。

1日は雨だった。仕事が中止になり、また寝ていた。友人に借りた本を読んだ。ムーミンの作者のお母さんとかの話で、最終章、おばあちゃんが死んじゃうのかと思ったら、「…まあ、もうしばらく、すわってることにしようか」で終わった。

そうねー、私もそうしようか。(まき)

2003年6月3日

台風の前で埃っぽい裏磐梯を洗い流したかの様に生き生きはっきり、磐梯山の岩肌も勇ましく、なんて思っていると、んん…キセキレイが戻って来てる。
同じ処では無いけど近くに巣作り始めてる(隣に前のが有るぞって言いたい!)心の中で「がんば!」、勿忘草も咲き揺れながらがんば!(すえ)

2003年6月5日

より一層、山を覆い尽くしてる緑がすそ野から空へ何かを伝達するかの様に葉をなびかせ、あっちこっちから虫の声が聞こえ、なにやら相談事かな?
窓の近くでキセキレイが急かすように尾を上下に動かしてる(すえ)

2003年6月6日

「今日、あいてる〜?」
7:45、蛇平の知りあいからtel。
「ミズナ採り一緒に行こ」
「行く行く行く!!」
1時間くらい採って、戻ってから葉をおとす。
「お昼食べてけばー」
「うん」
ばあちゃんが帰ってきた。
「タケノコ採りさ、行ってきた」(ネマガリタケのこと)
ひまなので、皮むきを手伝う。4人でやって夕方までかかった。大がまでゆでたのを、「夕飯分、もってけ」と、もらってくる。
うれしーなー。今日は、とても“地元の人”な1日でありました。(まき)



2003年6月7日

朝露に包まれたスギナが水晶のごとく輝き、たんぽぽのわたげが誰かの合図を今か今かと待っている。あっちもこっちも、ヨーイドン!
迷子のとんぼを指先に乗せて、、、ヨーイツー
皆、春から夏へ衣替え?(すえ)

2003年6月9日

吾妻連邦の縦走は無事に終わって、ホットしてるよ、残雪が多くて花は早すぎたようだよ。(すえ)

2003年6月9日

ゆうべ観た(うちはTVがないので、人んちで観た。う〜ん戦後まもない時代の人みたい)NHKの「武蔵」で、武蔵を追っかけて、1人で江戸へ向かってる女の人が、ボロボロになりながらも「私は死なない」とつぶやいていた。武蔵よりハードな旅してる〜。
今日は仕事が中止になってしまった。自動車税も払わなくちゃいけない。家賃もある。水道代もだ。
朝、ゴミすてに行ったら帰り、クレソンが生えてんのを見つけた。やった。「朝のサラダ用!!」5本くらいつんでくる。
家の前でワラビ採り。夕飯のおかずだ。思わずつぶやいてしまう。「私は死なない」それにしても、武蔵、なんてかっこいいんだろ。(まき)

2003年6月12日

キセキレイの巣立ちと思っていたら、からすによるものらしい。
 鳥の観察はからすに注意、自分の目線にからすの目線、自分の後ろにからすがいたら、
 要注意、次には巣はもぬけの空かも！
 からすの賢さ考えさせられるねえ。
 突然ですが、栃の木の花ってソフトクリームみたい。密かにソフトクリームの木と思っているのは私だけ？(すえ)

2003年6月15日

散歩をしていると、草刈りを終えたばかりか青臭い香りが漂い、爽やかさが体の中を通り抜ける。(思わずゆっくり深呼吸を！)
 また、眼を移すと紅輪たんぽぽが咲き乱れてる(裏磐梯の何処でも観られる訳ではないらしい)一つ一つの変化が初夏を感じさせる。(すえ)



2003年6月15日

梅雨なんではしょうか？ここ数日は夜雨が降り、日中はくもりがちです。
 今日は磐梯山のマイナールート、渋谷登山道へ。6月中旬のこのルートは、バンダイクワガタの花と、モリアオガエルの卵塊をCheckです。
 実にマイナーだ！日曜だったのに、山菜とりのご夫婦1組にしか会わない。
 狙いどおり、卵塊どっさり。バンダイクワガタは咲きたてのキレイな時。残雪があるあたりでは、ムラサキヤシオが咲いている。レンゲツツジ、ガクウラジロヨウラク、ヤマツツジ、タ



ニウツギ。上の方で見る花はどれも色が濃い。いいね～。

今回の新発見(自分にとってね。)は、沼の平の水たまりに、モリアオガエルの卵塊があったこと。

水辺でお弁当食べてたら、細々とカエルの声が。

「ここ、ひあがったりするんだけど、大丈夫なんかなあ」そして、鏡沼のモリアオは知ってたけど、ここにクロサンショウウオの卵塊がどっさりあるのにびっくりした。400まで数えて、あと、いやになった。(まき)

2003年6月18日

満開のニセアカシヤに、まるで養蜂所のように蜂が、私に気づかないほど花から花へ忙しい。

ときおり風に誘われるかの様に花だけがポツン、ポツンと落ち、花の絨毯の上をキセキレイがピョコ、ピョコ歩いている。香水付けてお出かけ?(すえ)

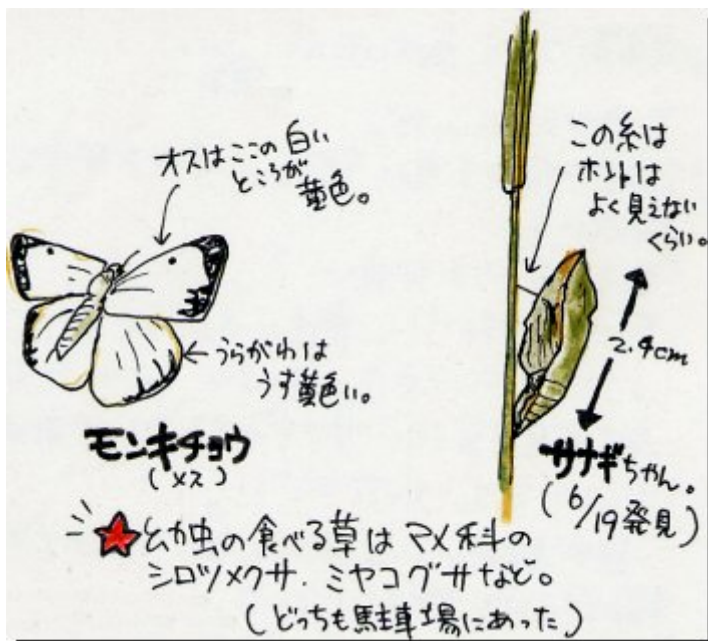
2003年6月18日

今週は、あちこち歩いてます(特に16日は4ヶ所はしごだ!!)。とゆーことで、花情報など速報。うーん、いい季節です!

- 雄国沼: タニウツギ、ガクウラジロヨウラク、レンゲツツジ、コバイケイソウ、ニッコウキスゲ(30%とこ)、タテヤマリンドウなど。某所でバイカウツギ。
- デコ平湿原: ワタスゲ(ピーク)、モウセンゴケ、コバイケイソウなど。イヌエンジュの新緑もよい。
- レンゲ沼、中瀬沼: ヒオウギアヤメ。サワオグルマ(ピークすぎ)、ホタルカズラ、アヤメ、ヤグルマソウ、カンボク、ツルアジサイなど。モリアオガエル卵塊もあり。
- 布滝(早稲沢から): ミヤマタタビ、ラショウモンカズラ、オオバミゾホオズキ、ギンリョウソウ(少なめ)、タチカメバソウ(ピークすぎ)、タニウツギなど。
- 浄土平～鎌沼付近!: イワカガミ、ツマトリソウ、マイヅルソウ、クロマメノキ、クロウスゴ、アズマシャクナゲ、ミヤマリンドウ(少なめ)、チングルマ(姥ヶ原サイコーです)、ミツバオウレン、ワタスゲなど。
- 鳥子平: ワタスゲ(ピーク)、チングルマ(少)、コミヤマカタバミ、ショウジョウバカマ(花です)(この2つは湿原に行くまでにあり)

(まき)

2003年6月23日



「ピンポン」
昼寝してたら、玄関チャイムが鳴る。うわ、もう4:00だよ。起きねば。
「はい」来客は、隣のMさん。
「まきちゃんちのサナギ、出ちゃった?」
「いや、まだだよ」
Mさんには、20日に、Mさんちの駐車場わきの草むらで発見したサナギ(草ごとひっこ抜いてから気づいたので、草を水につけてある)を見せていたのだ。
2人でチョウを見に行く。ハネはまだ少しよれている。
「出たばかりかなあー?」
白いそのチョウに、黄色いチョウが交尾(?)しようと近づいてきた。おいおい、生まれたてだぞ。
草むらを探すと、サナギの抜がらがあった。

「やっぱり出たばかりだ!!」

「目が緑色オ～」Mさんはデジカメで撮りながら感心していた。
「まきちゃんちのと兄弟かもね」「そうだね」うちのはいつかえるのかな。(まき)

2003年7月4日

昼頃からまた降りました。レンゲ沼のモリアオガエルの卵を見に行ったら、下の水たまりの水が増えてたので一安心。

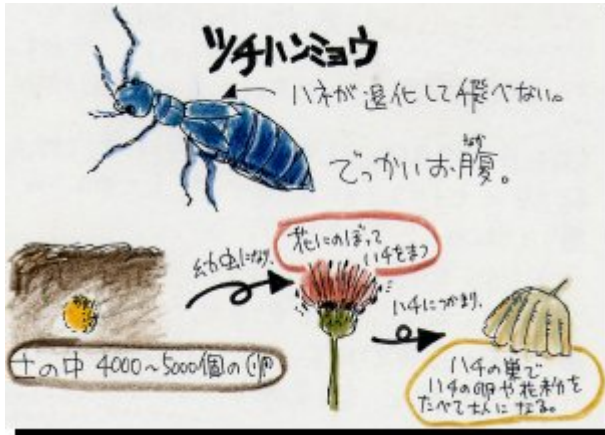
もうおしまいにしようと思ってたワラビとり。長くてよいのが1本、2本…わあ、いっぱいある！今日もまた、あく抜きしてしまいました。しかし草、のびたなあ。明日は草刈りしよ。

6月30日～7月1日、山形の大朝日岳に登ってきました。

稜線のヒメサユリが見頃。ヒメサユリの香りは甘くない！さわやかです。

平岩山から御影森山を歩くと、ツチハンミョウがゴロゴロ。ん～、ちょうど見頃だったのかなあ。あまり見かける虫ではないですけど。

鳥原山～小朝日岳間と、銀玉水の上に残雪あり。けさは「銀玉水コーヒー」にしてみました。んー、うまいっ。～てなこのごろです。(まき)



2003年7月15日

そういえば、今日は磐梯山が明治21年に爆発した日だ。朝7:45。ドッカーン。

それから115年たった本日は、神奈川県の中學生たちと、裏磐梯産のブラックバスは何を食べているのか？解剖してみようとうゆ一ことをしていた。時は流れるものである。

捕まえて、2～3日たってるサカナもいたので、「胃はからっぽ」と、あけて淋しいケースもあった。トンボのヤゴとか、小さなエビ、昆虫のかけらが出てきた。魚のたぐいは出てこなかったが、「魚は消化されやすく、虫とかエビはカラがかたいので残りやすい」ので「魚は食べてない」と、断定はできないぞ～だ。ワームや釣り針も出る。

国立公園でこういう調査(生徒にとっては学習)のチャンスは(まあ、国立公園でなくてもそーかもしれんけど)、なかなかないと思う。どーか、彼らの身になって欲しい。私も一緒に体験できて良かった。バスたちにも感謝。

その晩、2匹の解剖済スモールマウスバスが、ムニエル化して私の身となった。(まき)



2003年7月31日

朝から晩まで、降らなかったのは久しぶりだ。

午前10:45。ベランダからちょうど目の高さに見える繁みが、さわがしかった。

「何だ？」

ハシボソカラスが1羽、スズメがそれに動じずに5羽くらい、カラスに「あっち行ってよ！」とさわいでたのは、コムドリ。オス1羽とメス3羽か、と思ったら、メス色の2羽が、ちゃんと枝に立ってられなくて、お腹をすぐくっつけてしまう。そして、「くわ～」てな感じの口のあけ方をする。

「この2羽は大きくなった子供たちだな」たぶんFamilyなんだろう。カラスが去ったあと、ハネをのばしていた。

夕方6:50。家の近くの道路っぱたの、オオマツヨイグサの前にしゃがみこむ。花が開いていくのをじ～っと見てやる！



がくが広がって、少しづつ下がっていき、1枚目の花びらがほどけるように開いて、がくを下げると、4枚が順に開く。4つの開花を見た。7:30になっていた。23ヶ所かにくわれた。(まき)

2003年8月13日



2003年8月27日

久しぶりの晴れ間に水をいっぱい含んだ草木が、背伸びをするかの様に日差しを浴び、大小の蝶、蜻蛉、秋の虫が青空を楽しむかのように飛びまわってる。
あーした天気になーあれ。(すえ)

2003年8月31日

早朝、夢うつつにコンコココ、コンコココと微かに聞こえ、其のしつこさに目が覚め、ふとニセアカシヤに眼を向けると、朝食中のケラが…ん今何時かと思えば、五時半、もう少し寝かせてねと、夢の中へ。(すえ)

2003年8月31日

「蝶ウォッチング百選」(師尾 信(もろお まこと)著、晩聲社)を読む。70過ぎの、蝶追っかけおじさんの世界が、おもしろい。

ムモンアカシジミ、「飛翔力のあまりないこの蝶は、数少ない発生地から離れないで一生を送る。」「しかし、局所的な棲息地を探すのは大変だ。」「この幼虫は、まずアリによって卵が刺激されて孵化をする。そしてアブラムシやカイガラムシを餌とし、さらにクヌギの若葉を食草としているのだ。」「このような条件の整ったところはそれほどあるものではない。」

いや、ある! レンゲ沼の遊歩道の所に! ミズナラにアブラムシがついて、アリもいる木がある!! そして、一度だけ、その近くで見た茶色い小さなチョウがそれだったんだ…感動っ!
(まき)



2003年9月3日

「蝶ウォッチング百選」は猪苗代町の図書室で貸りたので、そろそろ返さなきゃならない。

8月中旬、うちの駐車場のアカツメクサのはっぱに、モンキチョウがホバリング(?)していた。ので、車の中からはばらく見た。チョウが行ってしまったあと、それっ！とばかりに、そちこちのはっぱチェックすると、やっぱり!!

1mmくらいの卵がある。うわ〜出産(?)に立ち合った〜。そうやって草むらにしゃがみこんでると、バッタの脱けがらが、ヨモギのうらにあたり、ハムシがいろいろいたり、マルハナバチが花にきたりするのが見えてきた。

虫はおもしろい。こんな近くに、こんな世界があったのか!!感動した私は、図鑑を見て名前を知りたくなかったが、虫っていっぱいいるんだわ〜。

それに、どう虫たちに近づいていったらいいのか、図鑑じゃよくわかんない。うーんうーん。

そんなとき、グッドなタイミングで、この本に会った。モロオおじさんは、“いつごろ、どこに行くと、何の木や草があると、このチョウに会えるよ。”てな話を100種について書いているんだけど、愛があるのよー。これが。

「本当に美しい表翅の青緑色は、羽化して1日経つとやや劣ってしまう。羽化の日を狙って、この蝶のためだけに会いに行く気持ちが大切だ」(オオミドリシジミ)

これだものー!!で、私も、その気になってくるんだな。(まき)



2003年9月5日

Sさんたちと、東吾妻山、西吾妻山に行く。ずーっと曇や雨が続けていたので、この2日間、スッキリ秋晴れ、よかったよかった。展望も上々。

吾妻の初秋は、リンドウ色でありました。

エゾオヤマリンドウ、ミヤマリンドウ、少々ツルリンドウ。登山道沿いに、湿原に、青い色がたっくさん。

花の種類が少なくなる季節ですが、リンドウ見るなら、今がいちばんいい。(まき)



2003年9月8日

「吉田さんの案内で、中吾妻行くんだけど」「行く行く!!」もくさんのお誘いに、私は即答した。中吾妻は、“経験者向き”と言われている。なかなか1人では行けない。

磐梯山に登ると、弘法清水の小屋で、いつもにっこりむかえてくれる、あの吉田さんの案内ならこの上なく心強い。

秋元湖奥の集落から、林道を車であがり、登山口へ。歩きはじめてすぐ、姥神様がある。まもなく唐松川。大きなミズナラといくつかの小滝がある。

「ここで身を清めて登ったんですよ」うなずけてしまう清流だ。

道はカラマツ林の急斜面になり、4本の大きなブナが表れて、ブナ林へと変わる。幹にはクマのツメ跡もあった。

コケむすオオシラビソとコメツガの森を越え、斜面を権現沢へと下ると、目指す吾妻山神社奥の院があった。建物やとりいはなく、沢の大岩にしめ縄があり、その下に石碑がある。たどりつくのに、4時間45分。吉田さんは、神様に御神酒とお米とお塩と果物をお供えた。

一行9人は、ここでお昼を食べ、御神酒もいただいた。出発まぎわ、沢に陽が射して、流れが輝いた。「神様が、ありがとうございますとほほえんでくれたんですね」と吉田さんが言った。

2時間40分くらいで、登山口に着く。

全員が安全に帰ってこられたのは、山の神様と山を大切にしている吉田さんが守ってくれたんだと自然におもえたのだった(まき)

2003年9月17日

晴が続く。火星は日が暮れてまもなく、東の空に赤く光っている。

お客さんと野鳥の森に行く。細野口は、エゾリンドウ、ゴマナ、ユウガギク、ノコンギク、ハンゴンソウ、ツリフネソウ、キツリフネ、トリカブトの花。赤いカンボクの実。青いサワフタギの実。ミツバアケビ、ヤマブドウの実。

ブナ林へ入ると、花が淋しい。桧原集落へ続く、新しい遊歩道へ入ってまもなくだった。午後1時。

「カモシカ！」5人目くらいを歩くお客さんの声。「えっ、どこですか？」先頭の私は、なかなか見つけられない。

前方のブナの間に、私たちと向かいあうように、カモシカがいた。うわ、なんて堂々としてるんだ。

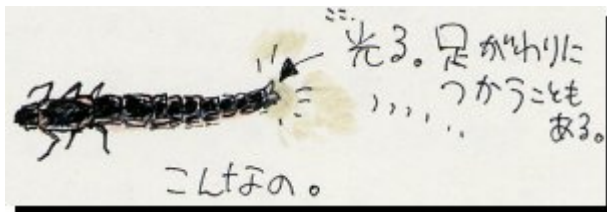
数分、じっと被写体になってくれてから、ゆっくり、ゆっくり道を横切り、カモシカは、あわてず、さわがず、谷へ下っていった。22人对1頭だったとゆーのに(さすがに驚いたようだったが)、なんと、ゆーぜんとしたカモシカだったことか。

「ホタルが光っているよ」裏磐梯で“ホタルの会”を立ち上げた木村さんが、ゆうべ見たという。

夜8時に11人が集まって、そのホタルを見に行った。ササやぶの下や、木の上に、光っている。

幼虫(幼虫なのか、これで成虫なのかは不明)のかっこうのホタルだった。

裏磐梯、新発見？わかってないことって、多いのね。(まき)



2003年9月23日

3日雨続きで、ウツウツとしていた。22日の晩、先日見たホタルを探しに行ってみた。ぐ〜んと冷え込んでいるせいなのか、それとももう出ないのか、1時間くらい探してようやく1匹光っていた。

8:40。「グルルルルウ〜」(あっ、ムササビの声だ!)飛ばないだろうか?と、空を見上げる。

ああ、満点の星。

「ようし、明日は若女平へ行こう!!」

7月、西大巔のてっぺんで、「若女平のコースって、大丈夫なの?」と聞かれたが、行ったことがなかった。

標高850mの白布温泉から、2,035mの西吾妻山へひたすら登る!これが若女平コースである。

白布からは、天元台のロープウェイとリフトで、1,820mへ上がってしまうので、「さびれてんだろ〜な〜。ヤブコギかなあ」と思いきや、ちゃーんと草刈りされている。

スギ植林、ミズナラ林、ブナ林、ダケカンバ林、オオシラビソ・コメツガ林へと、標高をかせぐにつれ、みごとに森も変化していく。時々展望もひらけて、飯豊や米沢が見える。だんだん、針葉樹が低木化してきて、山頂が近づいている気はするが、上は見えない。3時間たつて、おにぎりをかじりながら、「あと、どれくらいなんだ?」と思う。すると、上からくま鈴をチリ

ンチリン鳴らしながら、おにーさんが軽やかに下ってきた。はじめて人に会った。おにーさんは「こんにちは」と言うと、軽やかに行ってしまったので、情報が得られなかったが、それから15分くらいで、ポンと湿原に出た。

紅葉も始まっている。エゾオヤマリンドウの花もある。

まもなく「あっ、この木道は！」出た出た!!稜線のルート。人影も多い。せっかく下から登ったから、西吾妻山山頂も行く。4時間弱。

天気がいいので、藤十郎まで行った。8日に行った中吾妻山を見る。「カケノママからこっちは、手ごわいよなあ」でも、いつか行こうと思いつつ。(まき)

2003年9月29日

ベランダから見える、ヤブの中に、ミツバアケビがなっていた。

「ちょっと、もらってこよう」

駐車場の草むらには、片足とれたヒロバナヒナバタ、カメムシの幼虫、交尾してるカンタン、赤くなったマユタテアカネがいた。

背丈より高いススキのヤブをくぐると、目的のアケビより手前に、アケビがあった。ここでもいいや。

パックリ口を開け、ほどよく熟した実を2つもぐ。皮の淡い赤紫がきれい。そのツルがからんでるミズキの木に、気づけば50匹くらいのイモムシがいた。葉っぱはほとんど食いつくされている。はじめて見る虫。

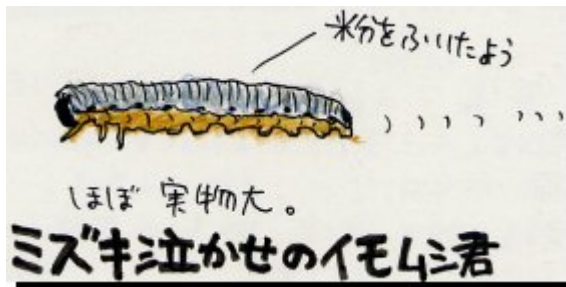
部屋に戻ろうと、1階の入口にさしかかったら、草の中に、小さいシマヘビがスルルル…と、入っていった。

肌寒いけど、まだみんな元気なのね。

「袈裟丸山ってわかりますか?」27日に磐梯山の山頂で、お客さんにたずねられた。

わかんなかったので、調べてみました。

群馬と栃木の県境、100名山の皇海山の南。標高1,878m。足尾銅山の近くです。(まき)



2003年10月3日

サーッと日の射す時もあるけど、急に冷たい雨がザーッと降り出したりする週だった。何度か山を歩いてこよう、と思ったが、くじけた。

まあ、この雨と寒さが、紅葉をつれてきてくれるのだ。ヤマウルシ、オオヤマザクラが赤く、ヤマグワが黄色くなってきている。

もう、ストーブをつけたくなる気温だ。でもつけてない。フンをかぶって本を読む。トーベ・ヤンソンの本がおもしろかったので、ムーミンシリーズを初めてひらいた。スニフが弱虫で、独占欲が強く、てってーてきに、なさけないやつなので、感心した。

こないだの日曜に、磐梯熱海のこっきさん(赤沼さんのオオヤさん)所で買ったのはちみつを、大さじ1杯、コーヒーに入れて飲む。おいしい。あったかくって、甘くって、ほっとする。(まき)



2003年10月7日

裏磐梯～吾妻をテリトリーとしている、クマたちの間では「今年は、ウミズザクラがさいこー!!」てな話になってるんだろうか?

8月下旬～9月上旬の休暇村や中瀬沼あたりのクマ棚がそうだった。今日の小野川湖畔探勝路でも、ウミズばかり、3ヶ所食べ跡があった。

だけれど食べにくいのかなあ。けっこう実



が残ったまま、枝が折られてんだよね。

こないだ発見してから、「ミズキ泣かせのイモムシ君」を1匹、飼ってました。3日後に、葉っぱ2枚、丸々食べてから、脱皮。それから3日くらい、指でつつくと「イヤー」と、体を曲げるものの、じーっとしていた。

4日目、新しい葉っぱも、あげたけど、食わずに脱走して、ミキサーの上にあったので、「んじゃ、みんなの所へ戻すからね。」時々、様子を見にいこう。

10月3日(たぶん)のお昼、台所の窓から見えるアカマツの枝を、リスが走ってた。この家に引っ越してきて3年くらいたつけど、はじめてだ。(まき)

2003年10月8日

このところ、なんとなく、吾妻の山に足が向く。(白布峠から、西大巔へいってみよう)
峠出発、10:28。ブナ林の尾根は、ハイキング気分。ぬかるむ所には、木を敷いてある。1人で歩くのにちょうどいい道幅だし、時折、展望もあるし、こちよ道だ。

馬場谷地は、う回路につけかえられている。3年前もそうだったが、ずっとなの。歩いてみたい…。

この先は未踏。オオシラビソの暗い森。等高線が密なのは、ダテじゃない。急だあ！しかも岩、岩、岩をのりこえる。このハードルートの救いは、ぬかるみが少ないこと。

「ピッピー、ピッピー」誰もいないと思ったのに、ホイッスルが鳴りひびく。(クマだと思われてんのか?)追いつくと年配のご夫婦だった。

12:33、山頂。「こんにちわ」と声をかけた人に、「まきさん！」と言われて驚く。クロカンのお客さんだった。「では、また冬に！」2人はデコへ。

下山して15分、ホイッスルご夫婦のランチタイムに出くわす。「ここで帰ろうと思ってね」「え～、20分で着くから行った方がいいですよ」ゆのみときゆうす持参なのが、ステキ。私もお茶とりんごをごちそうになり、のんびり。米沢のスズキさん、またいつか会うかな。(まき)

2003年10月13日

ここ数日、あったかいんだけど、紅葉がぐぐっと、深まった。

「雨だからって、閉じこもってるバアイじゃないよなア」
スカイバレーはふもとから峠まで、美しかった。そう、またしても吾妻を歩くことにした。

天元台のリフトを降りて、人形石までは、誰かしらいたのだけど、藤十郎へは、私一人。

尾根の色どりは、湿原の草紅葉。雨の中で、おにぎりを食べる。

藤十郎から大平温泉のルートは、ササを手で払い、道のまんなかまで生えている草を踏み、川になってる中をジャブジャブ下る。「迷いませんよーに」と祈りつつ(1回迷ったけど)、不忘閣(=萱平ヒュッテ?)へでた。1kmばかり、車道(といっても、山道だ)を歩き、谷へ下る。

温泉客に混じて、ずぶぬれのカッパで「お風呂だけ、入れますか?」ふー、生きかえるう。温泉のありがたさを、こんなに感じたことはない。

「天元台へは?」「これですね」宿の人は、ガケにかかった鉄ばしごを指していた。ひえ～。この後の1時間30分も、難路!!最後のロープウェイにギリギリ間に合う。

乗ってた人は、私以外、皆スタッフで、全員から「ありがとうございました!!」のおみおくりを受けた。(まき)



大平温泉は
433mから滝が見える。

2003年10月24日

磐梯山と吾妻連峰、初冠雪。

でも、雲が多くて、その姿はちらり、ちらりとしか見えませんでした。どちらも、標高1,500mより上あたりが、さらっと白くなっていました。

「野鳥の森展望台行ったら、よく見えるかな」灰色の雲の底が、西から東へ流れていく。陽が射すと、桧原湖が銀色に光った。

高い木々は、葉を落として、今は森の中に低い木々が、赤や黄に色づいています。

足元にはブナやミズナラの落葉。「ザアアッ」空がかけって、冷たい風が吹く。ブナの洞で

見かけた小さなヘビは、ゆっくりゆっくり、落葉へもぐっていった。(まき)



2003年11月19日

晴。おだやかな日だ。
「今日は、乾くかな～」と、頼まれていたペンキ塗りをやる。

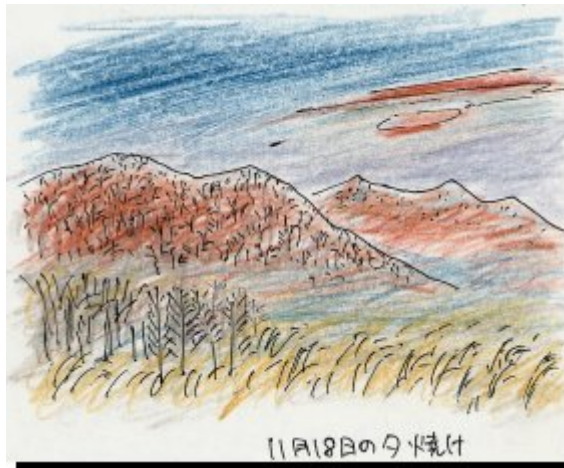
11月3日に、五色沼でのガイドが終わり、あとは12月末まで、ガイド業は休業。

民宿の手伝い、ペンションのバイト、畑仕事(収穫後の、かたづけ)、マキ運び、動物調査の手伝い。「稼ぎになるなら、なんでもやります」という日々。

友達が遊びに来てくれたり、父が来たり、「暇だろう」と思ってたら、うんにや、切れ目なく何かしていた。みなさん、ありがとう。

磐梯山の2度目の冠雪は、11月14日。17日に降った3度目は、裏磐梯の初雪でもあった。“山に3回降ると、里にも降る”という話はホントだなあ、誰がいったか知らないが。

秋はちょっと早めに去っていったが、本格的な冬はのんびりやってくるみたいだ。(まき)



2003年11月26日

友達から、リンゴの甘煮をもらって、ヨーグルトと一緒に食べてたが、「あきたなあ」だが、まだ甘煮はある。「お～し、アップルパイ化しようー!!」

家にあるのは、マーガリンと小麦粉。ボールにマーガリンを入れて、袋から直接、ざかざかと粉を入れる。指で粉をまぶすように混ぜて、そばろ状になったら、ひとまとめ。テーブルにラップを敷いて、生地をのせ、もう1枚ラップをかけて、カセットコンロのガスボンベで(めん棒がある家は、めん棒で!)2mmにのぼす。半分に切って、フォークでプツプツ穴あけて、りんごの甘煮をのせ、半分を上からかぶせる。

オーブントースターの天板にクッキングシートをひいてからのせて、7分焼く。

さくさくの生地と、シナモンの香りただよう、りんごがうまい。やみつきになって、甘煮も無くなったので、今日はリンゴを煮てから作っちゃった。(まき)



2003年12月12日

6日の晩に嵐がやってきて、それから3日くらい雪が降り続いた。よ～し、これで冬がはじまるぞ。…が、「う～、ヤバイ…」なかなか降らなかったのも、私は冬タイヤに換えてなかった。「でっ、出られん」自分で交換する人も多いが、私は近所のガソリンスタンドでやってもらう。

おじさん、一ヶ所カクくて難儀している。…と、ボルトが折れてしまった。えっ!!老朽化していたらしい。「ひえ～、どーしたらいいんだ…」おじさん指定の修理工場まで、1ヶ所締めてないまま、こわごわ運転して行く。私もよくお世話になってる、そのTモーターズのKさんは。「明日には直つから」は一、一安心。

翌朝Kさんが「ずいぶん前からカーブでがらがら音してたでしょ。」と連絡をくれた。「はい、そーなんです！」不安に思いながら、走ってたんだよね。その修理も頼んで、夕方には直つ

た車を届けてもらった。災いを転じて福となす。いや～めでたし、めでたし。Kさんは車の名医だぜ。(まき)

2003年12月18日

夜半、寝つけずに、本を読んでいた。17日はおだやかで、初クロカンを五色沼で試してみた。雪が少なく、時々板が岩でガリツとなった。

ネズミ、イタチ、リス、テンの足跡と、おじさん(たぶん)の足跡。板の跡なし。

長靴がいちばんだなあ、これは～。
毘沙門沼のハクチョウは、まだ来ていなかった。
…とゆー、日だったから、夜もシーンとしたもの。“びゅおおおおう”いきなり強い風が吹きだした。

あっ、今天気が変わりはじめたんだ。3:30。

18日の夜明けは6:20。(とうとう寝そびれたんです)

吹雪の朝。冬至のころって、日暮れも早まるけど、夜明けも遅くて、なんて昼が短いんだろう。

などと、実感しながら、ウトウト…。(まき)



2003年12月20日

3日続きで雪です。本日吹雪いています。

つもるつもる。年末年始はこれでバッチリだ。クリスマスだってホワイトだ。ホワイトアウトかも知れないぞ。遊びにきて下さいねえ、皆さん。

昨日はハイレベルな池田コーチのご指導のもと、て～れべるなたかはしと、ピカピカの新スタッフ、はすおが少年がクロカンをレッスン。

エンジンかかってきましたよ。

もくさんは猫魔スキー場でもうとっくに滑りこんでるし。

明日は、まもなくスタッフデビューの沖山けんじくんと五色沼のスノーシュー研修だ。

そんなわけで、「今日も練習だー」と、出かけるために、吹雪の中で雪かき雪かき。1時間30分。

もうひとかきでフィニッシュ、という所に村の除雪車が通りかかった。「あ、大木くんだー」えしゃくしたら、ガガガガガ…

えっ、うれしい～。あっというまにかたづいた。

去ってゆく除雪車に、手を振ってTHANK YOU。(まき)



2003年12月20日

やっと冬らしい景色が見られるようになりました。12月19日から降り続いた雪が一夜にして裏磐梯をスノーフィールドに変身！

ちょうど週末に「ネイチャースキー入門」の講習があったのでこりゃ～銅沼に行かなくては…。とっ、言う訳で今シーズン最初「銅沼」の映像です。

まだ、沼は凍っていないので奥までは行けませんがこのまま冷えれば年末には歩けるかも。

来週また行ってみますので続報をお楽しみに！(もく)

2003年12月28日

行ってきました“イエローフォール”という続報をお届けのつもりでしたがやっぱり雪が少なくて途中で断念。

でも、銅沼の上は歩けました。ただし、二人通ると水が染み出しちょっと不安が…グループで1列になって進むと後ろの人から一人、また一人…と居なくなるかも。おっ怖い。

十分注意して行って下さい。

スノーシューを利用の場合は夏道沿いに歩けばたどり着けます。
またの続報をお楽しみに！（もく）

2003年12月30日

みぞれまじりの雪が降った。一夜明けて、今日は晴。へなちょこテレマークの板で野鳥の森へ行ってみた。桧原湖はダークブルー、空はスカイブルー、山の木々には、どっさり重い雪がくっついて、まっ白だ。光がまぶしい。

吾妻がきれいだ。

「もう、何もいないやー」と、思ってしまった。ホントかよ？「やっぱりテレマークとクロカンが上手になりたい…。」

ウサギとテンとリスとカモシカの足あとと、私のトレースだけの森の中で、そんなことを考える年の暮れでありました。（まき）